

天遊

特別号

Contents

対談 栗林 澄夫×梶田 叡一

歴史的使命に挑む

天遊特別座談会

卒業生のいま 教員編・企業編

外国語学習支援ルームを開設

附属学校園ウォッチ



人にまっすぐ。
大阪教育大学

Conversation

対談 Sumio Kuribayashi × Eiichi Kajita

歴史的使命に挑む

梶田 叡一
(奈良学園大学学長)

【略歴】京都大学文学部哲学科心理学専攻卒、文学博士。大阪大学人間科学部教授、教育職員養成審議会委員、中央教育審議会副会長・教育課程部会会長、京都ノートルダム女子大学学長、兵庫教育大学学長、環太平洋大学学長を歴任し、平成26年4月から奈良学園大学学長に就任。昭和16年生まれ、73歳。

栗林 澄夫
(大阪教育大学学長)

【略歴】富山大学文理学部卒、大阪大学大学院文学研究科修士課程修了、文学修士。研究分野はドイツ近現代文学。平成16年4月から国立大学法人大阪教育大学理事・副学長、平成26年4月から学長に就任。昭和23年生まれ、66歳。

栗林澄夫学長が就任してから、まもなく1年を迎えます。

そこで、前兵庫教育大学学長で現奈良学園大学学長の梶田叡一氏をゲストに迎え、大学のトップの視点から「今後の教員養成の在り方と大阪教育大学の使命」について、熱く語り合いました。

教養学科出身の学長として

梶田 栗林先生は教養学科の、それもドイツ文学が専門領域という、教員養成系大学におけるいわば傍流ですね。わたしはね、教員養成の領域外の方が大阪教育大学の舵取りをされることは大変結構なことだと思います。わたしも自己意識研究が専門で、教育職員養成審議会の委員ではじめて教員養成に足を踏み入れ、中教審の教員養成部会長を3期務めて教職大学院制度や免許更新制度の導入に携わりました。そこで痛感したのが、教員養成の発展には、純血主義ではないということ。大阪教育大学では、教員養成課程と教養学科が相互に影響しあい、うまく融合していますね。教養学科出身の栗林先生がトップになられたことは非常に意義深いことです。

栗林 教員養成に本格的な関わりを持ったのは、1980年代後半のキャンパス移転問題の

ときです。大学の存亡がかかった危機的状況を打開するために、超党派の若手有志の勉強会に参加し、教員養成の在り方や、人材育成の観点からみた大学教員の配置などについて議論を重ねました。今振り返ると、学長としての下地作りとなったように思いますし、勉強会の存在がなければこの場にいないかもしれません。

教育の本筋は教養教育にあり

栗林 教員養成におけるわたしの考えとしては、師範学校から大学という高等教育機関に組織変革がおこなわれたことは、単なる制度的枠組の変遷に留まらず、広い視野で物事を判断し、豊かな人間性を養うという、教養教育の観点が入ったことが大きいと解釈しています。技術的なものだけでなく、高い人間的資質を備えた教員を養成することが、高等教育機関としての使命だと思うのです。

教職大学院の意義は

栗林 しかし学校現場の疲弊により、その本筋が忘れられがちになってしまっています。本学がそうした現場の状況にどう対応するかを考えた結果、教職大学院を創設することになった。現場を取り巻く厳しい課題と向き合い、学校教員に求められている能力を正しく見極め、実践性に優れた教員を養成することが強く迫られています。

梶田 教職大学院を設置されたことは大歓迎です。1970年代に、教員の再教育を目的と

梶田 まさに仰るとおり。長野県の小学校では信州教育の伝統として、毎月一回、職員会議の後に古典の輪読会をしています。教壇に立つ者は、知的な深さがなければいけないという思いから始まったもので、これは良い先生になる上で大事なことです。ドイツ文学も人間の成長をテーマとした名作が多いですね。

栗林 ドイツは長らくヨーロッパの後進国でしたから、人間の英知を磨かなければ産業の振興はないというお国柄が文学に象徴されているのではないかと思います。教育というのは、教育法で言うところの人格の完成をめざすということ。先ほどの信州の教育に表わされている教養教育に織り込まれた、人間をどう育てるかという考えが教育の本筋だと思います。

した大学院創設の第一波となる議論が起こり、兵庫教育大をはじめとする「新構想大学」が誕生しました。しかし残念なことに、三大学に任せても状況は大きくは変わりませんでした。

栗林 本学教員にも卒業生がおり、兵庫教育大学が関西で果たしてきた、教員養成教育の高度化への寄与は大きいと思いますが。

梶田 全国の小・中・高の教諭は約100万人です。率直に言って、その規模からすると新構想大学が果たせたことはごくわずかです。もう一度、100万人規模の教諭に刺激を与え、現場を変える原動力となるために、教員養成の専門職大学院を、という議論が巻き起こり、平成20年度より、教職大学院が創設されました。初年度は10大学が設置しましたが、あとがなかなか続かなかった。だから、西日本の教員養成系大学で最大規模を誇る貴学が設置に踏み切られて大変嬉しい。実現したのは、大阪府をはじめとする教育委員会との長年の結びつきがあればこそだと思います。わたしが学長を務めた兵庫教育大学の教職大学院も、兵庫県教育委員会が全面的に協力してくれました。それは、大学と同様、県教委も現場の課題を正しく認識していたからです。やはり、地域の教育委員会との連携が鍵となりますね。

栗林 大阪府、大阪市、堺市および豊能地区の教育委員会とは、定期的な連携協議会で折衝を進めています。それだけでは足りません。学長であるわたしが御用聞きとなって各市町





村の教育委員会に細かく足を運び、そこを通じて学校現場と連携する段階に入っているように思います。大学の教員養成が現場でいかに役に立つかということを議論していく時期です。

梶田 教育委員会も苦労していますね。教壇に立つて教える側に回る人は、小さい頃から勉強がよくできた人が多いですよ。しかしそれは弱さでもあります。できない子をどう扱ったらよいかわからない先生が少なくない。教育委員会は現場の相談役ですから、そういった事情をよく理解しています。大学だけでなく、いろいろなことは教育委員会や、校長、教頭と繰り返し接して、現場の生の声を教員養成教育に活かすことが重要です。

栗林 そのためには、教育委員会と連携して優秀な先生方を推薦してもらい、実績を積み重ねないと、学校現場で力を発揮するのは難しいと認識しています。今年度の本学教職大学院の定員は30人ですが、3年後の平成30年度には60、70に伸ばす具体的な数値目標を持って取り組みます。さらに、既存の大学院の教職大学院への二元化や、教職大学院への教科教育の導入も検討しています。これらの課題をこなしながら、より多くの現職教員に門戸を広げるよう、規模を大きくしていきたい。

梶田 新たな教員養成の動きでいえば、免許制度を根本的に変える動きが出てきています。現状の基礎免許は単位が多すぎて、抜本的に削減する必要があります。教員養成部会委員は、現場を知らない方も多いため、議論することに必要、これも必要と単位が増えてしまふ。それではダメで、医学部などは、思い切ったカリキュラムを大綱化しています。学校運営の中で、学年主任が若手の指導をしながら、体系的な形で力をつけないといけませんし、そのためにも、地域にカリキュラムセンターを置き、先生たちの自主的な研究を支援し盛り上げていくことが必要です。今から20数年前、わたしが教育委員をしていた箕面市で、そうした教育センターが設立されたのをきっかけとして、全国各地でカリキュラムセンター的機関が設置され、先生たちの自主的な教育活動の支援やネットワークの構築に貢献しました。

栗林 現在は教職大学院が、カリキュラムセンターの役割を担っていますね。特に本学教職大学院の場合は、本拠地が天王寺キャンパスですから、まさに現職教員のための大学院と言えます。わたし個人の構想としては、20階建ての棟を3つ建てて、大学の本部拠点を天王寺に移すことも視野に入れています。

梶田 それはぜひとも文科省に強く言って実現すべきです。

アメリカの失敗から学ぶ

梶田 ただ、教育研究も成功例だけでなく、失敗からも学んでほしい。最悪の形が『ゆとり教育』で、誰が生徒か先生かのめだかの学校状態になつてしまった。教師は子どもの何万倍も教養があり、視野の広さ、深さを持っていないといけません。教職大学院の運営でそれを再確認してほしいです。

栗林 ゆとり教育が不幸だったのは、子どもに材料を与え、熟考させて育成する試みだったのが、結果は教育ネグレクトになつてしまったところです。

梶田 そう、最初の課題認識は正しいのです。



アメリカがひと足先にさらに悲惨な失敗をしています。1970年代の『オープン・エデュケーション』がそれです。それ以前のアメリカは、ムチを振り振りチイパッパのすずめの学校状態が横行していたことから、子どもの側の発想を取り入れるべきとの考えから始まったものです。代表的なものが、ニューヨークの「壁のない学校」です。町中すべてが学び舎であるとして、子どもたちが先生と相談して、毎週自分で学習計画をつくる。あとは各自自由に町をめぐり、たとえば自動車修理工場で修理の仕方を習得すると、「実践自動車工学」という単位が取得できるという具合です。

栗林 アメリカの教育は、フリースクールやチャータースクールなど、今でもそういった要素が残っていますが、かなり急進的なものですね。

梶田 1970年代後半になると、現場の教師たちから「子どもたちの行儀が悪く、学力低下も深刻化している」との声が相次いだことから、1983年、連邦の有識者会議において「危機に立つ国家」という、基本に帰る基礎を保証すべし、との報告書が提出されました。そこからの復旧は迅速で、1、2年で教育カリキュラムを回復させ、その結果、学力も向上しました。フリースクールやチャータースクー

栗林 ただ、教職大学院をはじめとする、学校現場のニーズへの対応が大学における喫緊の課題となつている中、旧帝国大学の教育学部で博士を養成し、教員養成系大学に送り込む氣勢が急速に衰えています。今こそ、全国の教員養成系単科大学が一致団結して博士課程を創設し、実践性をふまえ、現場で役に立つ見識のある大学教員を養成し、その存在感、底力をアピールする時が来ています。

梶田 現在、単科大学では、東京学芸大学や兵庫教育大学が基幹大学となり、教員養成系学部を持つ大学との連合大学院で博士課程を設置していますね。

栗林 本学と北海道教育大学を中心とした残りの6単科大学で議論をする流れも一方にあります。が、やはり全教員養成系大学が一枚岩となり、どのような博士を養成しなければいけないかを議論すべきです。

梶田 そのためには、旧帝国大学の領域と一線を画したものでなければいけません。各単科大学の本領を発揮した博士課程を期待します。

栗林 ありがとうございます。やはり日本全体で教員養成の高度化を図るには、教員養成系大学全体の英知を集結させて、仕組みをつくるのがとても大事だと思います。形を作るのは文部科学省ですが、各大学が責任を持つて提言していかないとはいけません。

梶田 文科省としても具体的な提言があれば動きをとりまふ。大阪教育大学は、東の東京学芸大学と並び立つ西の雄です。ぜひ、一刻も早く博士課程を設置するべきです。貴学は教員採用実績でも日本でトップクラスですから、この水準を維持しつつ、西日本で博士課程における中心的な役割を担うこと、それは貴

ルをつくつて自由の余地も残しましたが、枠組みのある教育を施さないと社会は崩壊してしまいます。『ゆとり教育』もそうですが、要はバランスなのです。まず教師主導の教育指導があり、もう片方に子どもの世界があることを忘れてはいけません。ぜひ、教職大学院で人間としてのバランスの取れた見方や、懐の深さを養ってほしい。教師としての資質は授業のうまさだけではありません。課題一つひとつを洗い出してより良いものにしてください。

栗林 教職大学院は教員養成の高度化のひとつ形でもあります。が、先ほどから申しているとおり、教養教育も大事にしたい。アメリカでのゆとり教育がどんな悲惨な結果になったかは、まったく仰る通りです。その反省から、1980、90年代に、教養教育を中心とした生涯学習を再評価することで高度化を果たしました。わたしはアメリカでのITの発達もその流れがあつてこそで、日本の教員養成においても、その流れを止めてはいけないと思うのです。

教員養成系大学の英知を集結した博士課程を

学の歴史的な使命です。それに、博士課程を設置するということは、貴学の先生方にとつても良い刺激になるのではないのでしょうか。

栗林 一時期は、教員養成課程と教養学科で全く別の方向に向いているときもありましたが、博士課程を仲介として、再び教員養成課程を中心とした高度化モデルをつくる方向へ、軌を二にして協力し合えると期待しています。

梶田 貴学の規模の大学教員が一丸となれば、西日本全体を牽引できます。そういう意味でも、先頭に立つ方が教員養成を広い枠組みで考えておられるのは頼もしいことです。

アジアのリーダーとして

栗林 どの程度その期待に応えられるかはこれからですが、学長に就任してからの1年間で、新たな対応を図る必要がある部分も見えてきました。特に重点を置くのが「グローバル化への対応」です。これは国立大学改革プランへの回答でもあるのですが、国際センター長を務めた経験から、世界で通用する教員の養成をめざすべきだと認識しています。そのため、教員養成機関として各国で重要な役割を果たしている協定校※42校と二層の連携を図り、グローバル化の推進を優位に進めていきます。そしてゆくゆくはアジアの教育界の頂点に本学を導きたい。

梶田 日本の教育のあり方はアジア各国のモデルとして期待されています。栗林先生が在任しておられる間に、ぜひアジアのリーダーとして覇権を握ってください。

※平成27年1月現在



堀 剛

大阪府立信太高等学校教諭。
大学院国際文化専攻平成21年度卒。



玉城 明子

大阪市立阿倍野小学校教諭。
第二部小学校教員養成5年課程平成22年度卒。



前馬 彰策

守口市立金田小学校教諭。
教員養成課程理科教育専攻平成23年度卒。



石塚 有紀

大阪市立生野特別支援学校教諭。
特別支援教育教員養成課程平成23年度卒。

天遊特別座談会

卒業生のいま

夢に向かい、キャンパスを巣立った卒業生たちは、新しいフィールドでその夢をめざして大きく羽ばたいています。2015年1月、そんな卒業生がキャンパスに再び集まり、それぞれの現在・過去・未来を語りました。

大阪の教育を支える若手教員たち

ナビゲーター 田中 達（キャリア支援センター・アドバイザー）

本学を卒業されて、皆さん教師として立派に活躍されていますが、現在の生活はいかがですか。

を学ぶために、本学大学院の実践学校教育専攻に通い、昼は教師、夜は学生の二足のわらじをはいて頑張っています。

前馬 守口市立金田小学校に勤めています。1年目は3年生、2年目は5年生、3年目となる現在は6年生を担当しています。どの学年を受け持っても初めてのことばかりで、日々先輩の先生方からの助言に耳を傾けながら教壇に立っています。子どもたちはわんぱくで、手を焼くことも多いですが、皆純粋でかわいい。3学期になると、6年生は教科授業が少なくなるので、職業観や勤労観を育むキャリア教育を実施しています。

石塚 大阪市立生野特別支援学校小学部の6年生を担当しています。新任のときから3年間持ちあがりなので、可愛くて自分の子どものような感覚です。地域の特別支援教育のセンター校でもあるので、通常の学校の特別支援学級についてもコーディネーターとして、若輩ながら専門家の観点から先生方と連携・協力をしています。

玉城 大阪市立阿倍野小学校で2年生の学級担任をしています。1年目は4年生、2年目3年目には特別支援学級を受け持ち、現在が4年目です。実践環境に身を置き、あらためて、1日に5、6時間も学習に意識を向かせることの大切さとむずかしさを実感しました。もつと授業を面白くするための理論

堀 大阪府立信太高等学校で英語を教えています。1年目は副担任、2年目から4年目の3年間は1年生を持ちあがって卒業させ、5年目の現在は再び1年生の担任です。高校は学校間だけでなく、学級間での学力格差も大きく、中にはアルファベットを覚えるのも大変という生徒もいます。英語に関する映像を見せたり、音楽を聴かせたりして、英語に対する苦手意識を取り除くよう工夫しています。

特に重点を置いている取り組みは何ですか。

玉城 仲間づくりを大事にしています。いずれわたしが担任を離れたとしても、子どもたちは6年間をともに過ごします。一緒に遊んで、仲間を思いやる心を育み、子どもたち同士の結びつきが強くなるように努めています。

前馬 ぼくも子どもたちの遊びの時間に重点を置いています。大学の教育実習で実習先の先生から、子どもと一緒に遊ぶのは大事なことでだと教えられたのですが、そのときは意味が理解できず、ずっと心に引っかかっていました。現在勤めている学校の先輩からも同じことを言われて、実際に一緒に遊んでみてやっとわかったのです。輪の中に入ると、子どもたちの力関係が鮮明にわかり、心の動きがシグナルとして感じ取れます。身体が動く若いうち

は続けていこうと思っています。
特別支援学校でも「遊びの指導」を取り入れたカリキュラムがよく実施されていますね。

石塚 はい。ただ反面、通常の学校で学ぶものに手をつける余裕がなくなってしまう。それでも多くの領域を学んでほしいので、外国語活動やICT授業を試験的に導入し、中心になって進めています。忙しさは増しましたが、子どもたちの視野が広がり、それぞれがよく生きることに繋がれば嬉しいです。

高校ではどうですか。

堀 「共生推進教室」をご存知でしょうか。高校は義務教育ではないので、特別支援学級は

全国的にもほとんど設置されていません。そこで大阪府は平成18年度から、知的障がいのある生徒が高等学校の生徒と共に生き、共に学ぶという理念のもとに、「共生推進教室」を設置し、現時点で6校、平成27年度からさらに2校増えて計8校になります。ぼくは大学院時代に、「教室」の学生サポーターをしていましたが、ご縁なのか、平成26年度に本校にも設置され、担任することになりました。サポーターのときは立場が違うことで見方も変わり、対象の生徒がクラスに馴染めるだろうかと懸念の中でのスタートでしたが、うまく溶け込めているようで安心しています。

大阪は学力だけでなく、生活環境に課題を抱えている子どもも少なくありません。保護者とはどのように「コミュニケーション」を図っていますか。

玉城 教育は今日行くの格言どおり、何かおかしいと思ったら家庭訪問をして、保護者と直接、密に話をするようにしています。特に、特別支援学級を担当してから、保護者と相談して一緒に子どもの将来像を考えていく大切さを痛感しました。

石塚 保護者との方向性を間違えないで、学校と家庭が連携することが大事ですね。

前馬 小学生も高学年になると家庭で会話をする回数が減るようで、保護者から先生が教えてくれるまで知らなかった」との声を聞くことも多くなりました。気づいたことがあれば、たとえ些細なことでも情報共有しています。

小学校に比べると高校は保護者との関係はどうですか。

子どもたちの 笑顔をまもりたい



堀 とても新鮮な気持ちで聴いていました。高校では地理的に、足しげく家庭訪問できないところもあり、直接顔を合わせて話す機会は小学校に比べて少ない。さらに保護者から「もう高校生だから、本人に任せています」との声があり、なかなか踏み込めない。その分、生徒本人と根気強く向き合っています。

それでは、大学時代に話を移します。学生生活の思い出の中で、職業観に影響を与えていることはありますか。

前馬 大学時代は、勉強は二の次で、ひたすらサッカーに情熱を燃やしていました。ただ、好きなことに真剣に打ち込んでいた分、子どもたちにキャリア教育を指導するときに説得力が増すし、子どもたちもぼくの言葉を信頼してくれます。唯一後悔しているのは、もっと勉強しておけばよかったということ。忙しい中、機会を見つけては教育に関する講演を聴いたり、本を読んだりしていますが、どこかで聞いたことがあるぞと思ひ返してみると、すべて大学の授業で習ったことばかりなんです。大学からたくさん現場で役立つ情報

を与えてもらっていたのだと思うとともに、大学で習ったことの再復習に余分なお金がかつてもったいないなあという気持ちです。

石塚 わたしも耳にしたことのある専門知識に遭遇するたび、授業ファイルを復習しています。わたしは手話

サークルに所属して、講義の手話通訳やノートテイクといった修学支援もしていたので、知識だけでなく当事者の気持ちにもふれることができ、今の仕事のベースをつくってもらいました。また、ミュンヘンの日本人学校で手話を教える授業をして、海外に暮らす日本人の子どもたちと、聴覚障がいのことや、将来の夢の話などをしました。普段障がいのある人との関わりがほとんどない子どもたちの考えを聞くことができ、充実した時間でした。

玉城 わたしは3年次編入学で入りましたが、昼は理科支援員として学校で働き、夜は授業、放課後はサークルやイベント活動に勤しむパワフルな3年間でした。その中でも、困ったときに相談に乗ってくれる仲間や先生の存在が一番の宝物です。わたし自身も、子どもたちが悩み事を抱えているときに相談してもらえる存在になり、打ち明けられる仲間をつくるサポートができればいいですね。

堀 留学を経験したので学部は5年間、さらに大学院に2年在籍していたので、合計7年間を本学で過ごしましたが、大学時代と現在が一本の道でつながっているように思えます。

得られないものもあります。在学時に反抗的でいつも注意していた生徒のほうが、卒業するとよく遊びに来てくれるのです。そのときは大変でも、高校時代よりずっといい表情になった卒業生を見ると、報われた気がして嬉しくなりますね。

特別支援学校ならではの事情もあると思いますが、石塚さんはどうですか。

石塚 教師としての3年間、子どもと接するときのバリエーションの付け方を考えたり、コーディネーター業務に取り組んだり、周りの先生の助言から知識や技術を吸収したりと、自分がいかに成長できるかに重点を置いてきました。特別支援学校では、教師同士の協力体制が授業の要です。現在、知的障がいのある児童4人に担任2人の学級ですが、複数担任特有の難しさがあります。これまで以上に周囲に目を配り、先生方と共通理解をもつて、協力しあっていきたいです。

皆さんの理想とする学校はどんな学校ですか。

子どもたちが 安心できる居場所に



玉城 わたしが教師を志すきっかけとなったのは、第二編入学前に他大学の法学部で勉強するかたわら、法律事務所でアルバイトをしていたことです。少年事件の案件が多く、毎日笑って楽しく学校に行けることは当たり前のようでもとても貴重なことで、子どもたちの笑顔を守りたいと思いました。その信念をつらぬき、笑い声の絶えない教室をつくってきたいです。周りからの愛情が不足した環境で育った子どもは、他人だけでなく、自分自身も愛せなくなります。しっかりと愛情を注ぎ、情緒豊かで、自分も他人も思いやる心を育んでいきたいです。

前馬 子どもたちが自然体で過ごせる学校が理想です。わりに笑顔でいなくてもいい、誰かがつらい顔をしていたら、表情からお互いの気持ちを汲み取り、思いやれるのがいいと思います。担当している6年生が卒業したら、遊びに来てほしいと思う反面、逃げ場になつてもだめなのかなと取り越し苦労をしてしましますが、よくにできることは、楽しい思い出をとともにつくり、力強く送り出してあげることだと思っています。

石塚 大阪市もインクルーシブ教育をすすめています。わたし個人の意見としては、無理はしないでほしい。通常の学校に馴染めず、本校に相談が来る場合も少なくありません。学校でストレスを感じないように、安心できる居場所を確保してあげたいです。それとは別に、社会生活に必要なスキルを身につけさせるこ

す。学生サポーターをしていた共生推進教室を担当することになりましたし、英語を教えています。大学ではフランス語を専攻していたので、余興でフランス語も少し教えています。英語は拒否反応を起こす生徒がほとんどですが、不思議とフランス語は意欲的なのです。共生推進教室の生徒も英語は苦手だけれど、フランス語では自己紹介もできます。フランス語が話せても成績評価には反映されません。しかし、外国語を身につけることの楽しさも教育の本質として必要だと思いますし、そういった考え方の素地は大学で養いました。

昨今の教育現場は、教員の高齢化と若年化が同時並行で進み、中堅層の不足が深刻になっています。今後皆さんはミドルリーダーとして、どんな教師をめざしていますか。

玉城 つねに学び続ける教師でありたいので、働きながら大学院に通っています。修士論文のテーマが「授業における発問」で、どんな

守りに入ることなく 挑戦し続けたい



とも大切です。楽しく学校生活を送りながら、生きていくための技術を獲得させてあげることが目標です。

堀 生徒に夢や希望を与え、卒業してもふらつと顔を見せに寄ってくれる、ふるさとのような場所であればいいかなと思います。

最後に、教職をめざす学生にアドバイスをお願いします。

前馬 大阪教育大学は、レベルの高い部活、充実した留学制度、豊富な学校ボランティアと、オプション料金なしで自己啓発できる環境が整っていて、それを活用するかどうかは自分次第。よくももっと利用すればよかったなど、卒業した今になって思います。将来使えるところは積極的に活用してください。

玉城 勉強でも、遊びでも、スポーツでも、打ち込める環境が与えられているので、時間を有効に使ってほしいですね。特に、教員志望の学生であっても、海外に行つて視野を広げてほしい。わたしも大学の文化研修プログラムでタイへ3週間留学しましたが、日本の中の常識は、海外で必ずしもそうではないことを気付かせられ、その考え方は教職にも活かされています。

石塚 教育関係のアルバイトやボランティアだけでなく、他の業種にも挑戦してほしいです。教育関係者とは異なるも

発問をしたら子どもが興味をもつことができるかを研究していますが、授業をしながら勉強できる環境にいますので、実際に起きている事象に学んだことをあてはめる、理論と実践の反復ができ、選択の幅が広がりました。教師である以上ずっと学び続けなければいけませんし、それが目の前の子どもを救うことになると思います。

前馬 振り返るともう3年が過ぎようとしています。1年目と比べて果たして自分は成長しているのかと自問すると、たしかに経験は積んだけれども、1年目のほうが今よりがむしやりに思い切つてやっていて、それがいい結果につながっていたようにも思えます。年数を重ねても、守りに入ることなく挑戦し続けるようにしていきたい。そして、児童、保護者、同僚など、周りの人から必要とされ、その期待に応えられるいい先生でありたいです。

堀 皆さんの話を聞いて、あらゆる面で小学校と高校の違いを感じます。高校では担任であつても1日に会う時間は正味10分ほどで、教科担任としても

週に1000分程度です。だからこそ、生徒と一対一でしっかりと会話をする機会をつくり、向こうからも相談してもらえ、教師にならないと、とあらためて思いました。でも、高校教師でないと

の見方、考え方にふれることも大事だと思いますし、子どもを社会に送り出すにあたって、やはり教師も社会の仕組みを知っておくべきだと思います。教育についてはこれから何十年と学べると思うと、ぜひ学生の間にいろんな社会体験をしてほしいです。

堀 ぼくはあまのじゃくというか、わざと厳しい道を選ぶところがあるのです。ぼくは富山県出身ですが、大阪とは何もかも正反対。県民性ひとつとっても、富山人は寡黙。だからこそ、大阪に行つてみようと思いました。実際に大学生活を過ごしてみると、やはり気質も教育事情も全然違う。いったい、大阪で教師になつたらどんな大変だろうと思つたからこそ、大阪府の教員採用試験を受けました。留学も、日本が好きだからこそ海を渡りたくなり、口下手だからこそホームステイで嫌でもしやべらざるを得ない環境に身を置きました。それでも今まで、後悔したことは一度もなく、すべてがいい経験でした。皆さんも困難な状況に身を置いても逃げ出さず、ピンチをチャンスに変えるよう挑戦してください。

大学時代から現在までが 一本の道でつながっている





おお た まさ ひろ
太田 真寛

株式会社京都銀行(営業職)勤務。
教養学科健康生活科学専攻平成23年卒。

ふく い ゆう な
福井 佑那

株式会社日本旅行(総合職・営業職)勤務。
教養学科文化研究専攻平成24年度卒。

たか はし とも こ
高橋 朋子

摂津市役所(行政職)勤務。
教養学科人間科学専攻平成22年度卒。

天遊特別座談会

卒業生のいま

未知の分野で輝く企業人たち

現在どんなお仕事をされていますか。

高橋 摂津市役所の行政職に採用されて4年目です。市の教育委員会にある文化スポーツ課で、社会教育の一環として、市民向けイベントの企画運営をしています。入庁当初は、市民課で戸籍に関する窓口業務を担当していましたが、2年目の夏に突然異動の辞令が下り、翌々日に現在の部署へ配属となりました。年間を通してたくさんのイベントが開催されますが、主に美術展や演奏会などの文化芸術分野に携わっています。本番当日の半年前から、会場のセッティングや募集方法など構想を練り、専門家の意見を仰ぎながら、さまざまな市民活動団体と連携してイベントを創り上げています。昨年6月のW杯では、摂津市出身の本田圭佑選手の母校でパブリックビューイングも企画しました。

福井 株式会社日本旅行に総合職(営業)として採用され、勝負の3年目を迎えました。旅行業界というと一般的には、駅窓口でプランの提案やチケット手配をイメージされている方が多いと思います。わたしの所属する兵庫教育旅行支店は、学校からの教育を目的とした旅行に特化した専門店舗で、修学旅行や野外学習の企画提案から添乗までを、一人

の営業員が1年半から2年の長いスパンをかけて一括で担当します。具体的には、入札の情報を受けて数社でコンペティションを開催し、プレゼンテーションによって企画力などを競います。受注が決まれば、先生と打ち合わせを重ねて、当日添乗して案内するまでがひとつの仕事の流れです。

太田 株式会社京都銀行の山科支店で営業職として3年目になります。住宅ローンの営業が7割で、新規法人のルート開拓もしています。お客様の中には、本行でローンを組みたいけれども、審査が通らないケースもあり、審査機関に働きかけるなど、お客様と機関の間に立つて折衝するのも大切な仕事です。

大学時代にまったく経験したことのない業種ばかりだと思いますが、入社してのやりがいや苦労したことは何ですか。

仕事の知識だけでなく 人間的な魅力も 磨いていきたい



企業就職のお二人は、民間企業の良さはどういったところにあると思いますか。

太田 営業職は、ノルマが明確に数字として示される厳しさがある分、目標を達成できたときは最高に嬉しいんです。それに、銀行はともさサービス内容に大きな違いはないので、その中で自分を選んでもらえたときの喜びは、営業職でしか味わえないものです。

福井 自由に営業スタイルを確立し、自分の裁量次第で道を切り開ける楽しさがあります。その分、数字で成果を示さないとけない厳しさもありますが、それも楽しむ余裕がないと営業は難しい。今、うちの会社では営業職の女性を積極的に採用していて、わたしの同期も8割は女性です。ただこの業界は、男性主体の印象がお客様にも根強く残っているため、女性がのびのび力を発揮できる環境をつくるために、わたしが率先して結果を出していきたいです。

大学時代の思い出の中で、現在の職業観や生き方に影響を与えたことは何ですか。

高橋 所属していた合気道部で、少ない同期と力をあわせて大勢の後輩をひっぱり、後輩が

い感じもしますが、それも銀行員の肩書があつてこそ。また、一般に京都は閉鎖的な土地柄だといわれますが、確かに大阪のような開放的な雰囲気はありません。そこが難しくもあるのですが、いったん信頼を勝ち取ると非常に心強く、営業の醍醐味でもあります。**福井** 入社3ヶ月目から神戸市内の20校を担当先として与えられ、他社がベテランの男性陣の中、女性ばかりの一人。初コンペでは、新人にこんな責任の重い仕事をさせるなんて、内心震えながらプレゼンテーションをしました。当日の添乗でも、自分が企画したプランに沿って、300人単位の団体の陣頭指揮を取るのですが、現地で予期せぬトラブルに遭遇したり、事前情報と全く違ったりということもありました。それに、企画内容が良くて受注できたとしても、お互い初対面ですし、先生たちは私の父と同年代の方が多く、自分の子どもぐらいの年齢の女の子が大人数を牽引するのは不安です。だから、少しでも不安を解消してもらうために、プライベートを利用して現地で情報を収集し、こまめに連絡を取り、丁寧で迅速な回答を心がけて信頼関係を構築しています。一つとして同じ仕事はないですし、大変なことも多いですが、生徒さんからの「楽しかった」の一言ですべてが報われます。

大学で学んだ知識は 巡り巡って必ず役に立ちます



高橋 近隣の大きい市役所では、ひとつのイベントに複数担当者が付きますが、摂津市は小さい町なので、一人が担当する

イベント全般を取り仕切ります。人員の配置においても舵取りを任されるので、最初はとても大変でした。というのも、イベント運営に協力してくれる方は、お仕事を定年された私の祖父母ぐらいの年齢の方が多く、運営等のことでどうやって指示すればいいのかわからず戸惑ってしまうことが多々ありました。でも、それでは仕事が進まないで、たとえ小さな疑問でも耳を傾けて真摯に対応するよう心がけたところ、イベント終了後に「うまくいった良かったね。ありがとう」と感謝の言葉をもらい、嬉しくて涙が出ました。

高橋 企業さんは就職活動当初、企業中心で廻っていたのを途中で行政に転向されたそうなんです。

高橋 企業か行政か、と選択の枠を狭めてしまふのはもったいないと感じたんです。採用してくれたところがわたしの天職なのだ、と思いつつながら企業も行政も平行して就職活動しました。結果的に、摂津市役所に採用していただいたわけですが、企業であれ、市役所であれ、お客様の種類が違っただけで人と関わることに変わりはないですし、大学で学んだ人

黒帯をとる瞬間を見届けられたのが印象深いです。部内では場を和ませる役わりで、職場でも常に笑顔でいるよう心がけているので、市民の方から「笑顔が素敵だね」とお褒めの言葉をいただきました。もうひとつ印象に残っているのが、ハンディキャップを抱えた子どもたちの就学支援ボランティアのためにオーストラリアに渡航した時のことです。航空券の手配から、ホームステイやボランティアの受け入れ先まですべて自力で探しました。日本国籍のために受け入れを断られるといった差別にも遭いましたが、そういったことも含めて精神的にたくましく成長できました。

福井 サークルのメンバーとはいまでも仲が良く、仲間の存在は大学時代の財産です。サークルやアルバイトをいくつも掛け持ちして、忙しくも充実した大学生活でした。その中でも、留学したドイツでの1年間は、とても濃密な時間でした。最初の数ヶ月は、寮のインターネットの接続環境が悪く、ネットを利用できない日々が続く、遠い異国の地で、知り合いもいない中コミュニケーションツールが遮断された環境に、つらくて仕方がありませんで



Global Learning Community 外国語学習支援ルームを開設

英語を中心とする外国語学習を支援する
「総合学習スペース」として、2014年10月に開設されました。

外国語学習支援ルームとは

HATOプロジェクト※の「教職基礎体力を備え国際感覚に優れた教員の養成充実に向けた
改革プロジェクト」の一環として設立されました。

天王寺キャンパスには同じ機能を持つ「ランゲージ・チャットルーム」があります。

※HATOプロジェクト…大規模教員養成系単科大学である北海道教育大学(H)愛知教育大学(A)東京学芸大学
(T)大阪教育大学(O)の4大学が、大学間連携により教員養成機能の強化・充実を図るプロジェクト。

した。でも、LINEやツイッターなど、画面上の文字でのやり取りが普通の世の中で、辞書を引きながらお喋りをするある種の原始的な環境に身を置けたことは、語学の上達だけでなく、顔を合わせたコミュニケーションの大切さを実感できるとても有意義な経験でした。

太田 4年間ずっと硬式野球部に人生をささげてきたので、その思い出ばかりが浮かびます。高校時代はエースナンバーをつけて、毎試合マウンドに上がりましたが、大学でレ



ベルの違いを痛感し、壁にぶち当たりました。チームスポーツは結果が伴わないと居場所が見つけられないので、自分の存在価値は何かと悩んだこともありましたが、チームメートはいつもあたたかく、とても良いチームでした。野球が好きで、一生懸命努力を重ねて練習したけれども報われないことばかり。でもその悔しさから培われた反骨心や粘り強さは、社会で生きる上で大事な糧となっているので、続けて本当に良かったです。

皆さん、大学時代は教師としての夢も抱いていたそうですが、現在の道に進んだ理由は？
太田 幼いころから大学まで野球をしていたので、どこかで野球の指導者という漠然とした夢を持っていましたが、大学の4年間を通して、世間を広く知りたいという思いが強くなりました。社会人として生計を立てていくにあたり、どんな業種を選ぶか考えた時に、世の中でお金を扱わない企業はないですし、さまざまな業種の経営者と関われるので銀行を選びました。

福井 ドイツ留学の影響も大きかったのですが、帰国後、教育実習で高校生に英語の授業をした際に、文章読解はできるのに、スピーキングを苦手としている生徒が多く、実践機会の少なさにもどかしさを覚えました。短期間の旅行でも、スピーキングの上達はもちろん、異文化に出会うことで何倍も成長できます。日本で英語を教えるよりも、直接海外の空気にふれてもらおうお手伝いがしたいと思い、旅行会社を志望しました。

高橋 わたしも留学がきっかけとなり、学校

の枠を超えて人となりをもちたいと思うようになりました。でも今の仕事で、児童・生徒への芸術を媒体とした精神療法、いわゆる芸術療法に関わるイベントも担当していて、大学で学んだ知識は、教師でなくとも巡り巡っているような方面で役立つのだなと感じています。

それでは、これからの仕事や人生での展望を教えてください。

太田 入社してもうすぐ3年が経ちますが、今でも学ぶことがたくさんあります。金融についての知識はもちろん、多くのお客様から「お前さんから取引した」と言ってもらえるよう、人間的な魅力も磨いていきます。そして法人個人を問わず、お客様への金融サポートを通して、社会の活性化に貢献していきたいです。

福井 今一番やりたいことが、インバウンド営業といつて海外からの観光客を日本に呼び込む仕事です。大学時代に留学生のお世話係をするチューターを務めていましたが、彼らとは今も親交が続いています。今、アジアから日本へたくさん観光客が訪れていますが、欧米やアフリカからもたくさんお客様を連れてきて、日本の良さにふれてもらいたいです。

高橋 公共の福祉を摂津市民の皆さんに提供することがわたしの仕事ですが、市民全体にいきわたらせることはとても難しいことだと感じています。だからせめて、摂津市に住んで良かったと思えるイベントを企画・運営することで、市民の方々に選

元できたらと思います。

最後に、後輩の学生たちへメッセージをお願いします。

太田 今のこの時間を大切に、好きなことに思い切り挑戦してください。何しろ、社会人になると時間がまったくとれなくて、学生の時にあれもこれもやっておけばと後悔しきりです。体力はあふれているはずですから、興味のあることに全力投球してください。

福井 わたしも旅行したり、遊んだり、大好きなことを存分に楽しんだ学生生活から一転、いきなり時間に追われてギャップに苦しみました。ぜひ悔いのないよう、一日一日を大切に過ごしてください。明確な目標や理想像をもって、毎日を着実に歩むことが大きく成長する秘訣です。

高橋 大学は、高校までよりもさまざまな価値観や才能を持った人が集まる出会いの場です。自分と違う考えにふれ、何気ない一言で道が開けたり、救われたりすることもあるのではないのでしょうか。人との出会い大切にしてください。

目標や理想をもって 一日一日を大切に



プログラム

- ルーム内学習
 - ① 英会話チャット
 - ② Music Event
 - ③ ライティング・センター
(アカデミックライティングの指導)
 - ④ 季節のイベント開催
- 外国語学習教材の閲覧・貸出
- 学習・留学相談

ルームの役割

外国語運用能力の向上にはたゆまぬ自律学習が不可欠ですが、独学で進めていくと思わぬ壁にぶつかることがあります。外国語学習支援ルームでは、学生一人ひとりの能力、ニーズおよび学習スタイルに応じてアドバイスをしています。また、日本人学生、留学生、教職員、そして地域住民も含めて外国語でのコミュニケーションを楽しみつつ、一緒に学び合う「コミュニティ」を形成することを目指しています。

専任スタッフ紹介

ジョン・トムセック・サード 特任准教授
わたしはルーム内での英語学習全般をサポートしています。英語は世界中の人々と交流するための『コミュニケーション・ツール』です。ぜひこのルームを発射台として世界へ羽ばたいてください！大教大の学生はとも真面目で熱意に満ち、指導にやりがいを感じています。将来的には、学生が主体となり、自分たちの理想の『コミュニティ』を創り上げてほしいと願っています。



石田 雅子 外国語学習アドバイザー

わたしは学習・留学相談を主に担当しています。毎日、色々な相談を持って学生が訪れますが、一人ひとりへの親身で丁寧な対応を心がけています。GLCへ相談に来る学生は将来への可能性をたくさん秘めています。そんな学生たちの話を聞き、わたし自身も毎日ワクワクしながら皆さんの成長のお手伝いをしたいと思っています。ぜひ気軽にルームへお越しください。





【安全教育の世界的モデルとして】

附属池田中学校が学校安全の国際認証を取得



附属池田中学校が国際的な学校安全認証である「インターナショナルセーフスクール（以下、ISS）」を取得し、10月10日に認証記念式典が行われました。国内5校目、中学校としては国内初となります。

ISS認証は、「運営体制」「長期的に持続可能な取組」「評価分析されているか」「情報収集と情報発信に取り組んでいるか」など8つの指標に基づいて評価されます。

前日の最終実地審査でプレゼンテーションや校内視察、ヒヤリングが行われ、特に生徒が主体となったケガやいじめ防止などの取り組みが高く評価され、認証が決定しました。

10日の式典には、生徒や関係者ら約600人が出席し、審査員の李明憲台湾ISS認証センター主席、WHO-CCSCoSKoustiv Dalai氏、藤田大輔日本ISS認証センター代表、小南修身池田市市長、栗林澄夫大阪教育大学長、野浪正隆附属池田中学校長、小野宏規附属池田中学校PTA会長、吉田里奈附属池田中学校生徒会長が協定書にサインし、ISS旗を持って記念撮影を行いました。野浪校長は「更なる努力を重ね、安全教育のモデルをつ



【未来のグローバル・リーダー育成を】 附属高平野校舎が課題研究発表会を開催

附属高平野校舎が、『課題研究合同発表会』を12月15日（月）に開催しました。この発表会は、文部科学省が

推進するSGH（スーパーグローバルハイスクール）に求められる『問題解決力の国際的素養』に対応したものです。SGHは、将来国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図ることを目的とする事業で、同校は準指定校に認定されています。

同研究は、一年時総合学習の授業に組み込み、「保健・医療」「企業の社会貢献」「貧困とソーシャルビジネス」「行政」の4つのグループに分類して課題を設定し、産官学の有識者から助言を受けて調査・考察しました。

発表では、『ラオスに母子手帳を普及するには』『平野商店街の町おこし』など、グローバルからローカルまで、個性豊かな10件の研究提案がなさ



れました。質疑応答では、大阪市平野区長の藤井清美氏をはじめとする産官学のゲストティーチャーが、「財源は？」

「広報手段は？」など、それぞれの立場から鋭い指摘をし、生徒たちは四苦八苦しながらも、自分たちの意見を述べていました。

発表した生徒からは、「課題研究を通して、海外の教育水準や文化水準を学び、日本の教育水準の高さや、環境に恵まれていることを再認識しました」「取材でさまざまな人の生の声を聞くことで、アンケートなど数字の分析だけでは見えない、新しい課題を発見しました」との感想が聞かれました。

堀川理介副校長は「昨年度から始めた取り組みですが、今年は産官学の連携も充実し、研究の内容も深まってきました。新たに改善すべき点も見つかり、SGH指定校認定に向けて、よりレベルの高い授業を展開していきたい」と抱負を述べました。



有識者を招いての課題設定

【めざせ！山中伸弥先輩】

附属天王寺校舎が科学研究発表会を開催



SGH（スーパーサイエンスハイスクール）事業の一環として、附属高等学校天王寺校舎が『第6回生徒研究発表会』を12月13日（土）、天王寺キャンパスで開催しました。SGHは文部科学省が掲げる科学技術者育成事業で、同校は指定校に認定されています。同校の偉大な大先輩山中伸弥氏に続けと、本

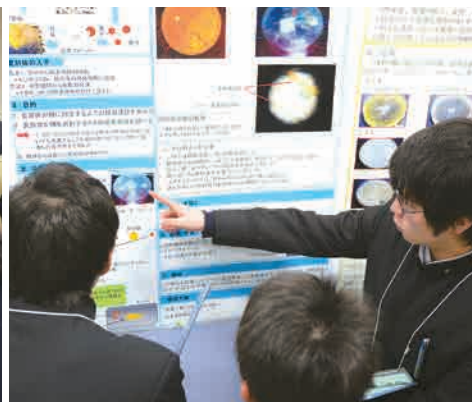
学と連携した課題研究や、海外の大学や研究所との交流など、科学への興味を促し、手法を学ぶための多彩なプログラムを6年前から展開しています。

今回の発表会では、身近な題材をテーマにした課題研究などについて、本学教員の指導を受けながら約半年間、

調査、実験、考察を重ねました。51件の研究がポスター化され、そのうち22件が研究結果を発表しました。全発表者が冒頭の概要を英語で説明したほか、全編英語で発表する生徒もいました。また今回は、前々日の11日（木）に提携を結んだタイのPrincess Chulabhorn Science High School Pathumthaniから招聘された6人の女子学生も発表し、英語での質疑応答が繰り広げられました。

口頭発表した生徒は、「グループ内で意見が対立したときは、ひとつを本案、もうひとつを対立案として進めました。全員で十分に考察して発表しました。もじでしたが、大学の先生から自分たちの考えの及ばなかった点を多数指摘され、勉強になりました」と感想を語りました。

研究指導にあたった情報処理センター長の片桐昌直教授は「生徒と教員だけでなく、教員同士の交流も進み、附属との連携における代表的取り組みとなつていきます。数学や情報科学などの先生方が指導教員に参画したこともあって、研究内容がより多角的になり、年々レベルが向上しています。今後とも指導を通して、生徒たちの豊かな発想力と考察力を伸ばしていきたい」と意気込みました。





大正から昭和初期の小学校国語教科書

明治37年(1904)から昭和24年(1949)まで、小学校では全国一律の「国定教科書」が使用されていました。『尋常小学国語読本』(写真右、大正7年～昭和7年まで使用)および『小学国語読本』(写真左、昭和8年～昭和15年まで使用)はその一部で、現在でもなじみ深い昔話や、当時の人々の日常が窺われる身近な題材のほか、戦争の時代を感じさせる物語なども含まれています。本学附属図書館では、幕末の往来物から明治・大正・昭和にかけての教科書約12,000冊のコレクションを所蔵しています。

[天遊 特別号 (vol.33)] 2015年3月発行

企画・編集・発行／国立大学法人大阪教育大学管理部総務企画課
〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1 TEL.072-978-3344 FAX.072-978-3225 E-mail kouhou@bur.osaka-kyoiku.ac.jp URL <http://osaka-kyoiku.ac.jp>

表紙イラスト／西口 寧佳(教養学科芸術専攻美術・書道コース)